

[第1章]

御嶽山20日間の記録



時系列で振り返る御嶽山噴火（長野県側の動き）

■ 9月27日（土） 晴れ／日の出5時41分・日の入り17時41分

主な動き

- 11時52分 御嶽山噴火
- 12時20分 木曾町が災害対策本部を設置
- 12時30分 王滝村が災害対策本部を設置
- 12時36分 噴火警戒レベル1（平常）からレベル3（入山規制）に引き上げ
- 13時20分 長野県が警戒対策本部を設置
- 13時35分 長野県警察が災害警備本部を設置
- 13時55分 長野県警察機動隊が出動
- 14時10分 長野県が御嶽山噴火災害対策本部を設置
- 14時30分 長野県が災害医療本部設置
長野県がDMAT出動要請
- 14時31分 自衛隊に災害派遣要請
- 15時00分 第1回災害対策本部員会議開催
- 16時40分 関係省庁災害対策会議開催（国）
- 18時20分 第2回災害対策本部員会議開催
- 20時30分 総務省消防庁に緊急消防援助隊出動要請
- 22時10分 県庁に消防応援活動調整本部を設置
- 23時00分 災害救助法適用（木曾町・王滝村）

【噴火以前】

平成26年9月11日10時20分、気象庁が火山性地震が増えていると発表。木曾町と王滝村は山小屋に連絡して、異常がないことを確認。

【11時52分】

御嶽山が噴火。気象庁が御嶽山の噴火を確認（平成19年以来7年ぶり）。

【11時53分】

王滝頂上山荘より王滝村に噴火の第一報。

【11時55分】

木曾町三岳支所^{みたび}に山小屋関係者から噴火の第一報。

【11時56分】

木曾広域消防本部に山小屋のスタッフから119番通報。長野県警察本部（以下「長野県警」）にも110番通報。

【12時】

気象庁が噴火に関する観測報を発表。
長野県危機管理部当直職員が知事以下関係職員に緊急メールを送信し、職員を招集。

【12時1分】

約40名が避難していると山小屋から木曾広域消防本部に119番通報。

木曾町役場に木曾広域消防本部より噴火の第一報。

【12時2分】

気象庁が航空路火山灰情報を発表。

【12時4分】

木曾広域消防本部が全職員に緊急メールを配信。

【12時8分】

木曾広域消防本部が長野県危機管理部に噴火の状況を報告。

【12時10分】

木曾町が一斉メールで全職員を非常招集。

【12時13分】

長野地方気象台から長野県庁に噴火の電話連絡。

【12時15分】

長野県警が災害警戒本部（本部長＝警備部長）を設置。



御嶽頂上山荘から見た噴火直後の様子（加藤）



噴火直後、二ノ池にも噴煙が迫る（小寺）



噴煙は上空7000メートルに達した（小寺）

【12時16分】

木曾広域消防本部が、長野県消防防災航空隊に現場への出動を要請するが、噴煙への対応が困難なため出動不能との回答。

【12時20分】

木曾町が災害対策本部（本部長＝町長）を設置。三岳支所と開田支所かいだに地域対策本部を設置。

【12時21分】

国土交通省が火山灰の影響する高度、移動方向等に関する航空情報（ノータム）を発行。

【12時30分】

王滝村が災害対策本部（本部長＝村長）を設置。

【12時31分】

木曾町が木曾温泉手前の県道分岐点で交通規制を開始。

【12時35分】

木曾警察署が災害警備本部（本部長＝木曾署長）を設置。

【12時36分】

内閣府が情報対策室を設置。

気象庁が「火口周辺警報」を発表し、噴火警戒レベルをレベル1（平常）からレベル3（入山規制）に引き上げ。

【12時52分】

長野県が警戒二次体制へ強化。

木曾町は、噴火警戒レベル変更にもない、入山禁止エリアを火口から概ね4キロに設定。

【12時55分】

御岳ロープウェイが運行を停止。

【13時過ぎ】

王滝頂上山荘に避難していた登山者が下山を開始。

【13時20分】

長野県が警戒対策本部（本部長＝危機管理監）を設置。



またたく間に噴煙が青空を隠した（小寺）



王滝口登山道八合目付近から見た王滝頂上山荘。背後には大量の噴煙が湧きあがる（鎌田）

【13時23分】

国が首相官邸に情報連絡室を設置。

【13時30分】

長野地方気象台が災害対策連絡会議を開催。
王滝村が臨時避難所を王滝村公民館に開設。
情報収集のため、長野県警ヘリが現地へ向けて離陸。

【13時35分】

長野県警が災害警備本部（本部長＝警察本部長）を設置。
気象庁が降灰予報を発表。この日はおよそ3時間ごと、



長野県庁で開かれた第1回災害対策本部員会議

その後は概ね6時間ごとに、噴火による降灰が予想される地域を図示（10月10日まで）。

【13時45分】

木曾町が開田口登山道を入山規制。

【13時55分】

気象庁が機動調査班（JMA-MOT）を現地に派遣して噴火や降灰の状況などを調査。

長野県警の機動隊が出動。

【13時56分】

長野県警の関東管区機動隊が出動。

【14時6分】

県の消防防災ヘリコプターが上空からの偵察を開始。

【14時10分】

長野県の警戒対策本部を災害対策本部（本部長＝阿部守一長野県知事）へ格上げ。

【14時20分】

長野県警が「山頂付近に約150名が取り残されていると

の情報がある」と発表。

木曾町と王滝村が県に自衛隊の出動要請を依頼。

【14時25分】

太田昭宏国土交通大臣が防災センターに登庁し、対策を指示。

【14時28分】

五の池小屋に登山者52名が避難。

【14時30分】

内閣府が情報連絡室を官邸連絡室に改組。

総務省消防庁が災害対策室（室長＝応急対策室長）、中部森林管理局が災害対策本部を設置。警察庁は災害情報連絡室を災害警備連絡室（室長＝警備課長）に改組。

気象庁が火山活動状況について記者会見を開催。

長野県が災害医療本部を設置、県立木曾病院にDMAT（災害派遣医療チーム）の出動を要請。

【14時31分】

阿部知事が「人命救助に係る災害派遣」を陸上自衛隊第13普通科連隊長に要請。

【14時35分】

木曾森林管理署が災害対策本部を設置。

【14時38分】

信州ドクターヘリ松本が、おんたけ2240スキー場の駐車場へ向けて信州大学医学部附属病院を離陸。

【14時40分】

太田国土交通大臣と中部地方整備局長がテレビ会議。

【14時52分】

木曾広域消防本部が松本広域消防局に応援を要請。



木曾町役場では全職員を招集して対応（木）



御岳ロープウェイ山麓駅からも噴煙が確認できた（ア）

【15時】

長野県が第1回災害対策本部員会議を開催。阿部知事は木曾地方事務所からテレビ会議システムで参加。

内閣府が霞が関の合同庁舎で「御嶽山噴火に係る関係省庁担当者会議」を開催。厚生労働省が情報連絡室を設置。

【15時10分】

日本赤十字社長野県支部が災害対策本部を設置。

【15時14分】

陸上自衛隊第12ヘリコプター隊（群馬県・相馬原駐屯地）



木曾病院にDMATの医師が集まり始める（木病）



王滝頂上山荘には約70名が避難（鎌田）



二ノ池本館の屋根を貫通した噴石（小寺）



小屋のなかまで火山灰が入り込んだ（加藤）



黒沢口登山道で下山する灰まみれの登山者（加藤）



登山者には山小屋に配備してあったヘルメットが貸与された（林）

の中型多用途ヘリコプター（UH-60）が情報収集を開始。

【15時15分】

国土交通省が官邸リエゾン（情報連絡員）を派遣。

【15時20分】

国土交通省が中部地方整備局防災ヘリコプターによる概況調査を実施。山頂の南西側に大きく開いた3ヶ所の噴火口、山頂付近に厚さ50センチの降灰を確認。

【15時25分】

陸上自衛隊第13普通科連隊の初動対処部隊（ファスト・フォース）が松本駐屯地を出発。

【15時26分】

陸上自衛隊第12ヘリコプター隊の観測用ヘリコプターが現地に向けて離陸。

【15時30分】

木曽町が現地対策本部を御岳ロープウェイに設置。

【15時32分】

木曽町が三岳交流促進センターに下山者待機所を設置。

【15時36分】

長野県が県内の10病院にDMATの出勤を要請。参集拠点は松本市の信州大学医学部附属病院、活動拠点は県立木曽病院。

【15時40分】

自衛隊長野地方協力本部の連絡員が長野県庁に到着。

【15時43分】

長野県が広域災害救急医療情報システム（EMIS）を災害モードに切り替え。

【15時45分】

松本広域消防局の指揮支援隊が出動。

【15時52分】

陸上自衛隊第12偵察隊が相馬原駐屯地を出発。

【15時55分】

陸上自衛隊東部方面航空隊（東京都・立川駐屯地）のヘリコプター（映像伝送機）が離陸。

【16時】

国土交通省が道路の降灰除去を行う緊急災害対策派遣隊（テック・フォース）を派遣。

気象庁が火山の状況に関する解説情報を発表（以後、概ね3時間ごとに発表）。

【16時36分】

国土地理院が御嶽山の3D表示データを提供。

【16時40分】

震ヶ関の中央合同庁舎で「御嶽山噴火に係る関係省庁災害対策会議」を開催。山谷えり子内閣府特命担当大臣（防災）と松本洋平内閣府大臣政務官が出席し、今後の活動の見通しや被害状況、各省庁の対応状況の情報を共有。

文部科学省が災害情報連絡室を設置。

【16時45分】

DMATが県立木曽病院に活動拠点本部を、御岳ロープウェイ山麓駅に現場救護所を設置。信州ドクターヘリ佐久

が木曽病院に着陸。

【17時】

国が「7名意識不明、8名大ケガ」と発表。

気象庁が災害対策本部を設置。

【17時7分】

長野県が木曽町と王滝村に緊急速報メールを送信。登山者に下山を促し、入山禁止の旨を伝達。

【17時10分】

五の池小屋にいた登山者27名が、小坂口登山道を経て濁河温泉にぎりごに下山。マイクロバスで長野県に移動。

【17時35分】

長野県警の機動隊員と木曽広域消防本部の救助隊員が王滝口から入山。

【17時40分】

陸上自衛隊第13普通科連隊の救助部隊が黒沢口へ向け松本駐屯地を出発。

【17時45分】

安否確認を行うため、長野県警が警察本部と木曽警察署にそれぞれフリーダイヤルを設置。

【17時50分】

文部科学省が関係県の教育委員会に、児童生徒等の安全確保と文教施設の被害状況の把握、二次災害防止を要請。



対応に追われる御岳ロープウェイの事務所（木）



ロープウェイも火山灰まみれに（ア）



御岳ロープウェイ山麓駅にたどり着いた登山者（木）



木曾警察署に設けられた災害警備本部（警）

【18時7分】

日本赤十字社が王滝村公民館と木曾町三岳交流促進センターへ毛布80枚と安眠セット15セットを搬送。

【18時20分】

長野県が第2回災害対策本部員会議を開催。救助・救出活動に必要な資機材の準備と体制づくりを速やかに行うことを確認。

【18時30分】

甲府市の気象台が敷地内に駐車してある車のフロントガラスに火山灰が積もっているのを確認。

【18時35分】

陸上自衛隊第12旅団の連絡員が長野県庁に到着。

【18時52分】

日本赤十字社が御岳ロープウェイ現場救護所へ毛布を搬送。

【19時ごろ】

長野県が意識不明者は7名と明らかにする。
内閣府の先遣チームが長野県庁に到着。



王滝口から入山した救助隊が下山者を誘導（警）



御岳ロープウェイ山麓駅の現場救護所で待機するDMATの隊員（木病）

【19時10分】

国土交通省が小坂口（岐阜県側）の下山道で照明車両による徒歩下山者支援を開始。

【19時25分】

内閣府が230名程度の下山を確認。

【19時28分】

内閣府が「御嶽山噴火の火山活動に関する関係省庁局長級会議」を開催。

【19時30分】

木曾広域消防本部が松本広域消防局を通じて北アルプス広域消防本部に応援要請。

【19時37分】

国土地理院が電子基準点解析結果の基線変化グラフを関係機関に提供。

【20時】

長野県が隣県にDMATの派遣を要請。23時25分に5県（新潟、埼玉、群馬、山梨、岐阜）および厚生労働省からの派遣が決定。



無線電話で情報収集する陸上自衛隊第13普通科連隊の隊員（自）



木曾町が提供した下山者の待機所（木）

【20時15分】

国土地理院が災害対策本部会議を開催。

【20時20分】

総務省消防庁が災害対策本部（本部長＝国民保護・防災部長）を設置。

【20時30分】

長野県が総務省消防庁に緊急消防援助隊の派遣を要請。総務省消防庁は消防組織法第44条第1項により、1都3県（愛知、静岡、山梨、東京）に対し、火山ガス検知資機材を保有する高度救助隊および山岳救助隊の出動を要請。

【21時15分】

木曾広域消防本部が県の総括代表消防機関（長野市消防局）に応援を要請。長野県消防相互応援隊が活動開始。

【21時20分】

陸上自衛隊第13普通科連隊の救助部隊が王滝口へ向けて松本駐屯地を出発。

【22時10分】

長野市消防局が長野県庁へ職員を派遣。消防応援活動調



関係機関が集まって救助方法を検討（自）



情報交換をする下山者たち（木）

整本部を設置。

自衛隊の大型輸送ヘリコプター（CH-47）が松本空港に待機。

【22時30分】

五の池小屋への避難者は、骨折の疑いがある2名を含む35名（登山者25名、警察官3名、下呂市職員2名、山小屋関係者5名）。下山せずに一夜を過ごす。

【23時】

長野県が木曾町と王滝村に災害救助法を適用。2町村が設置した避難所の費用などを国と県が負担。

【23時15分】

陸上自衛隊第2普通科連隊（新潟県・高田駐屯地）が松本駐屯地に到着。

国土交通省が長野県側の3ヶ所の登山口に下山・救助活動を支援するため照明車3台を派遣。

【23時40分】

国土交通省が木曾町道鹿ノ瀬線の降灰除去作業（中部地方整備局の路面清掃車、散水車を使用）を実施。翌28日4時20分完了。



御岳ロープウェイに到着した陸上自衛隊の隊員。深夜0時13分（自）

■ 9月28日(日) 晴れ/日の出5時42分・日の入り17時39分

主な動き

- 7時40分 救助・救出活動開始
- 8時30分 第3回災害対策本部員会議開催
- 11時00分 第4回災害対策本部員会議開催
- 14時45分 第5回災害対策本部員会議開催
- 15時頃 捜索・救助活動終了(救助者12名)
- 15時30分 政府調査団(西村康稔内閣府副大臣)が長野県庁に到着
- 17時00分 国が御嶽山噴火非常災害対策本部を設置
- 22時00分 国が長野県庁に御嶽山噴火非常災害現地対策本部を設置

【1時】

長野市消防局の第1次隊が出動。県内の各消防本部からも続々と現地へ向かう。

【2時32分】

自衛隊の大型輸送ヘリコプター(CH-47)が松本空港に待機。

【2時41分】

陸上自衛隊富士教導団(静岡県・富士駐屯地、静岡県・滝ヶ原駐屯地)が、王滝口および黒沢口へ向けて駐屯地を順次出発。

【3時】

国土交通省が照明車両を配備。徒歩下山者および自衛隊等の入山を支援。

【3時20分】

長野県消防相互応援隊が「道の駅^{ひよし}日義木曾駒高原」に集結。

【4時】

緊急消防援助隊が「道の駅 木曾福島」に集結。

【4時35分】

名古屋市消防局の指揮支援隊が木曾広域消防本部に到着。緊急消防援助隊の現地指揮支援本部を設置。

【5時】

長野県災害対策本部が火山の活動状況を気象庁に確認。陸上自衛隊東部方面航空隊のヘリコプター(映像伝送機)が離陸。

【5時25分】

長野県消防相互応援隊が黒沢口、王滝口に向けて道の駅を出発。

【5時30分】

陸上自衛隊松本駐屯地から陸上自衛隊ヘリコプター2機



複数の火口から噴煙があがる。噴火はおさまる様子を見せない(地)



夜を徹して現場へ向かう緊急消防援助隊(東消)



DMATの隊員が麓の施設で待機(自)

が出動、救助活動を開始。

信州大学医学部附属病院のDMATが、王滝口五合目の八海山神社付近で待機。その後、県立木曽病院に移動。

【5時35分】

王滝村役場で警察、消防、自衛隊、国土交通省による対策本部会議を開催。

【5時38分】

長野県警のヘリコプター「やまびこ1号」が情報収集のため出動。

【5時45分】

自衛隊の救助隊が黒沢口、王滝口から入山開始。

【6時】

総務省消防庁が長野県庁へ職員を派遣。

8時までの間にDMATが現場救護所を王滝口と三岳交流センターに設置。

【6時2分】

国土交通省中部地方整備局が、噴火・降灰の状況把握と二次災害防止対策検討のため、防災ヘリコプターによる緊



黒沢口六合目（中の湯）に集まった各隊の車両（中邑）

急調査を実施（気象庁職員も同乗）。御嶽山山頂付近に北西から南東方向に延びる火口列を確認。

【6時19分】

自衛隊ヘリコプターが山頂付近で登山者6名を確認（その6名は自力で下山）。

【6時51分】

自衛隊ヘリが八丁ダルミで手を挙げて救助を求めている2名を発見。ホイスト救助（吊り上げ救助）し、県立木曽青峰高校グラウンドに搬送。



入山の荷造りをする緊急消防援助隊の隊員（東消）



王滝口登山道の田の原登山口より救助隊が入山（木消）



担架（バスケットストレッチャー）を背負う消防の救助隊員（木消）



黒沢口八合目の女人堂を通過（長消）

【7時30分】

国土交通省が開田高原保健休養地内の町道の降灰除去作業を実施。16時30分完了。

【7時40分】

黒沢口より、長野県警管区機動隊、緊急消防援助隊（名古屋市隊・山梨県隊）、長野県消防相互応援隊、自衛隊から成る救助隊212名が順次入山。

【8時30分】

長野県が第3回災害対策本部員会議を開催。

【8時51分】

国土地理院が御嶽山の火山基本図を関係機関に提供。

【9時55分】

王滝口より、長野県警機動隊、緊急消防援助隊（東京都

隊・静岡県隊）、長野県消防相互応援隊、自衛隊から成る救助隊212名が順次入山。

【9時57分～10時17分】

自衛隊ヘリが覚明堂で登山者4名をホイスト救助。松本駐屯地へ搬送。

【10時20分】

国土交通省中部地方整備局が開田口登山道などで降灰状況調査を実施。無人ヘリで立ち入り規制区域も調査。

【10時30分】

国土交通省が関係局長等会議を開催。

【11時】

長野県が第4回災害対策本部員会議を開催。

王滝村が保健福祉センターに臨時避難所を開設。国土交通省中部地方整備局が降灰状況について記者会見。

【11時19分】

岐阜県側の登山者の下山が完了。

【11時20分】

DMATが現場救護所を撤収。

自衛隊ヘリが覚明堂で登山者1名をホイスト救助。木曾青峰高校グラウンドへ搬送。

【11時30分】

阿部知事と山谷防災担当大臣がテレビ会議を行う。



稜線の向こうに噴煙が立ちのぼる（長消）



高度を増すにつれて火山灰が増えてくる（自）



黒沢口八合目の上部から山頂方向を望む。覚明堂では自衛隊のヘリコプターがホイスト救助中（中邑）

【11時40分】

黒沢口から入山した救助隊が御嶽剣ヶ峰山荘で複数の要救助者と接触。負傷者には応急処置を施す。

【11時50分】

王滝口から入山した救助隊が王滝頂上山荘で複数の要救助者と接触。応急処置を施したのち、13時ごろに搬送を開始。

【12時】

総務省消防庁が「正午現在、負傷者は計37名。長野県側は30名で、うち1名が重症。岐阜県側は7名が負傷し、うち2名は重症」と発表。

【12時20分】

国土地理院が航空機「くにかぜⅢ」で写真撮影を実施。15時54分に航空写真367枚を関係機関に提供。

【12時41分】

長野県が災害派遣精神医療チーム（DPAT）の派遣を決定。

【12時50分】

西村康稔内閣府副大臣を団長とする政府調査団を長野県庁に派遣。

【12時55分】

長野県の災害医療対策本部が日本赤十字社長野支部救護班に派遣要請。13時34分に木曽病院へ向けて出発。

【13時】

霞ヶ関の中央合同庁舎で第2回関係省庁災害対策会議を開催。その後、山谷防災担当大臣、長野県庁の阿部知事、名古屋大学大学院環境学研究科の山岡耕春教授がテレビ会議を行う。



山頂手前の稜線。雲のように噴煙があがる（名消）



救助隊が山頂に到着（自）





損壊が激しい御嶽頂上山荘（左）と御嶽剣ヶ峰山荘（右）。屋根には噴石が貫通した跡が残る（長瀬）



御嶽剣ヶ峰山荘から要救助者を搬送（長消）



すぐそばで大量の噴煙が立ちのぼる（中邑）



山頂周辺の状況を確認（名消）

【13時18分】

自衛隊ヘリが覚明堂で4名をホイストおよび接地により救助。

【13時30分】

DPAT 1 チームが県立こころの医療センター駒ヶ根より出動。

【13時47分】

自衛隊ヘリが覚明堂で4名をホイスト救助。

【14時】

救助隊が6名の登山者を発見し、徒歩での下山誘導を開始。有毒な火山ガスが検知されたため、救助活動を中止。

長野県警が要救助者30数名を確認したと発表。

官邸危機管理センターに置いた官邸連絡室を、官邸対策室（室長＝内閣危機管理監）に格上げ。警察庁は災害警備

連絡室を災害警備本部（本部長＝警備局長）に格上げ。

【14時10分】

岐阜県側の山小屋のスタッフらが小坂口に下山。

【14時17分】

自衛隊ヘリが覚明堂で4名をホイスト救助。

【14時30分】

内閣危機管理監が捜索関係省庁担当局長に「被害者の迅速な救出・救命に全力を尽くすこと」「火山活動の監視、滑落の防止等、捜索従事者の安全確保に万全を期すこと」「危険を察知した場合には、ただちに作業を中止し、安全なところに退避すること」と通達。

【14時45分】

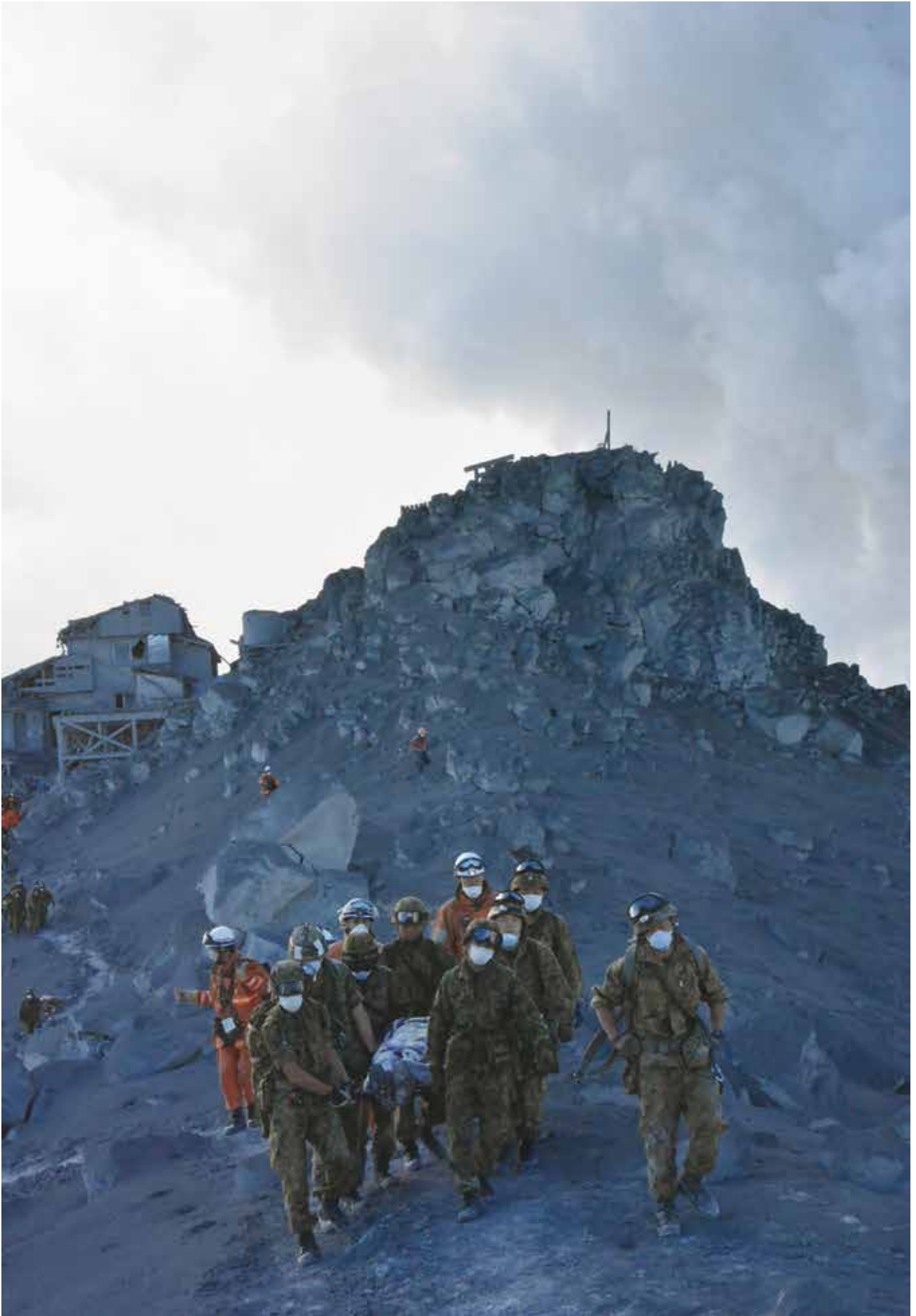
長野県が第5回災害対策本部員会議を開催。



担架を持って稜線を下る（名消）



ホイスト救助は消防と自衛隊が連携して行った（長消）



山頂から要救助者を担架に乗せて搬送（自）



救助隊が王滝頂上山荘に到着（東消）



壁やガスボンベに火山灰がべったりと付着（東消）



火山灰が小屋のなかまで入り込んでいる（東消）



王滝頂上山荘から要救助者の搬送開始。急斜面では担架をロープで確保（東消）



王滝口登山道八合目でホイスト救助（松消）

王滝頂上山荘から搬送中の負傷者を、王滝口八合目付近で自衛隊ヘリがホイスト救助。17時13分までに計12名を救助。

【15時30分】

政府調査団（西村内閣府副大臣）が長野県庁を訪れ、阿部知事と意見交換を行う。阿部知事は人命救助への対応、火山活動の監視強化、二次災害防止への対応を要請。

【16時】

気象庁で火山噴火予知連絡会（会長＝藤井敏嗣東京大学名

誉教授）が拡大幹事会を開催。

王滝村が保健福祉センターの臨時避難所を閉鎖。来所者は王滝村公民館へ移動。

【16時53分】

自衛隊ヘリが御嶽剣ヶ峰山荘付近で3名をホイスト救助。

【17時】

国は災害対策基本法に基づき、関係省庁災害対策会議を「御嶽山噴火非常災害対策本部」（本部長＝山谷防災担当大



担架を持った救助隊が続々と連なる（警）



1名は登山口まで徒歩で搬送した（松消）



応急処置をしたのち、病院へ救急搬送（松消）

臣）に格上げ。総務省消防庁は消防庁長官を本部長とする災害対策本部に、警察庁は災害警備本部を非常災害警備本部（本部長＝次長）へ改組。

【17時25分】

自衛隊ヘリが御嶽剣ヶ峰山荘付近で1名をホイスト救助。

【18時】

厚生労働省が災害対策本部を設置。

王滝村公民館の来館者が、木曽町の中部公民館と杭の原公民館へ移動完了。

【19時】

国の御嶽山噴火非常災害対策本部が第1回の本部会議を霞ヶ関の合同庁舎で開催（10月28日まで計15回開催）。西村内閣府副大臣による政府調査団の報告や、山岡耕春名古屋大学大学院環境学研究科教授とのテレビ会議などが行われる。

【19時19分】

心肺停止の3名が木曽町の旧上田小学校（ご遺体安置所）に到着。身元確認作業を開始。

【19時30分】

気象庁が記者会見。火山噴火予知連絡会拡大幹事会の見解を公表。また、噴火警報（火口周辺警報）を更新し、木曽町、王滝村、高山市、下呂市の4市町村に火砕流に対して警戒するよう呼びかける。

【22時】

災害応急対策を的確かつ迅速に実施するため、非常災害対策本部の事務の一部を行う組織として、国が長野県庁に「御嶽山噴火非常災害現地対策本部」（本部長＝松本洋平内閣府大臣政務官、以下「現地対策本部」）を設置。

【22時45分】

長野県警が4名の死亡確認を発表。

この時間までに、木曽病院には13～68歳の30名が搬送され、そのうち10名を火山灰を吸い込んだことによる気道熱傷など中等症と診断。うち数名は松本市の信州大学医学部附属病院などに転送。

【時間不明】

救助活動中の二次災害を防止するため、国土交通省が「救助活動等における土砂災害への警戒について」を関係機関に配布。



松本空港に待機中の自衛隊の大型輸送ヘリコプター

■ 9月29日(月) 晴れ/日の出5時43分・日の入り17時38分

主な動き

- 6時10分 救助・救出活動開始
- 8時00分 第6回災害対策本部員会議・第1回国現地对策本部会議合同開催
- 15時頃 救助・救出活動終了
- 17時00分 第7回災害対策本部員会議・第2回国現地对策本部会議合同開催
長野県DMAT活動終了。日本赤十字社医療救護班活動開始

【1時10分】

長野県警が身元不明の4名のうち2名の身元を確認したと発表。

【6時10分】

開田口より警察と自衛隊の救助隊73名が入山開始。

【6時50分】

黒沢口より消防の救助隊47名が入山開始。木曾広域消防本部の署員がガイド役として先導。

【7時】

王滝口より救助隊247名が入山開始。

【7時9分】

自衛隊員や県警機動隊員を乗せた自衛隊ヘリコプター3機が王滝村の松原スポーツ公園を離陸。

【7時30分ごろ】

前日に引き続き、木曾町役場内に安否確認の関係者のた

めの待機所を設置。

【8時】

長野県庁で県の第6回災害対策本部員会議と国の第1回現地对策本部会議を合同開催。阿部知事が「国と一体となって対応にあたる。被災者や行方不明者のご家族を万全の体制で支援したい」と発言。

この日の午前中に安倍晋三内閣総理大臣が山谷防災担当大臣と会談。総理が「救助活動に全力を挙げ、二次災害を防ぐために監視体制を強化する」ように指示。

【8時42分】

火山ガスを感知したため、救助隊が山頂から王滝口九合目避難小屋まで一時退避。

【10時43分】

自衛隊の中型ヘリコプターが一ノ池付近で要救助者3名を収容。

【10時54分】

自衛隊ヘリが、さらに要救助者3名を収容して一ノ池を離陸。

【11時】

長野地方気象台によると、29日0時～11時までの1時間ごとに観測された御嶽山周辺の火山性地震は0～6回。この間の噴煙は、一時高さ約500メートルに達した。

木曾町役場の待機所に安否不明者のご家族や友人ら約100名が集まる。

【11時25分】

王滝口から山頂に向かった救助隊が、火山ガスの濃度が



黒沢口六合目(中の湯)で消防隊員が入山の準備(木消)



開田口登山道を登る警察の機動隊員(警)

高いため九合目付近から下山を開始。空気中の硫化水素の濃度基準値を超えたことから捜索は中断。

【11時40分】

日本赤十字社長野県支部の救護班が木曽病院に到着。

【11時45分】

厚生労働省が第1回災害対策本部会議を開催。

【11時46分】

自衛隊ヘリが一ノ池付近で要救助者2名を収容。

【12時】

国土交通省が、砂防専門家等による降灰状況の調査を中部地方整備局の防災ヘリコプターで実施。

木曽病院が通常診療へ移行。日本赤十字社の医療救護班が到着。

【13時】

王滝口の救助隊、下山完了。

【13時07分】

山頂付近で風向きが変わり噴煙が流れ込んできたため、



ヘリコプターに乗り込む自衛隊員（自）



長野県警の機動隊員もヘリコプターに同乗（自）



現場へ向かう自衛隊の化学防護隊員（自）



山頂へ向かう自衛隊の地上隊（自）



一ノ池から担架（バスケットストレッチャー）を持って山頂へ急ぐ（警）



DMATが日本赤十字社の医療救護班に救援活動を引き継ぎ（木曽町）

これ以上の捜索は危険と判断。黒沢口登山道から入山した救助隊が下山を開始。

【13時44分】

開田口登山道から入山した救助隊も下山を開始。

【14時55分】

長野県警が、新たに5名が心肺停止状態と発表。

【15時】

気象庁の担当者が「15時時点で噴火が継続している」と報告。前日に初めて火山ガスを観測し、二酸化硫黄の放出量は1日あたり300～700トン、平均400トンほどと発表。放出量の多寡は、過去のデータがないため不明。

【16時30分】

長野県警が新たに6名の死亡が確認されたと発表。

【16時45分】

日本赤十字社の医療救護班が木曽町の旧上田小学校に本部を設置。

【17時】

長野県庁で県の第7回災害対策本部会議と国の第2回現地対策本部会議を合同開催。山谷防災担当大臣が「本日は火山ガスの心配もあり、救助活動が中断。火山活動も継続しているので、救助部隊の安全を確保しながら活動を実施していただきたい」と発言。

長野県側のDMATが活動を終了。以降の救護活動は日本赤十字社の医療救護班に引き継ぎ。

【19時15分】

長野県警が1名の身元を確認したと発表。

【19時20分】

火山性微動の振幅がやや大きくなる。

【20時】

木曽町が、役場に設置していたご家族待機所を農業者トレーニングセンターなど3ヶ所の公共施設に移動。この日は57名が利用。

【22時5分】

長野県警が4名の身元を確認したと発表。

【23時50分】

長野県警が1名の身元を確認したと発表。



山麓からも噴煙がはっきり確認できる。中央の車両は隊員救出用に待機する自衛隊の装甲車（名消）



駐車場に残されたままの自動車（中邑）



自動車に挟まれた木曽警察署のメモ（中邑）

■ 9月30日(火) 晴れのち曇り、一時雨／日の出5時44分・日の入り17時36分

主な動き

- 6時20分 救助・救出活動開始
- 8時00分 第8回災害対策本部員会議・第3回国現地对策本部会議合同開催
- 14時45分 北川国土交通副大臣への要望
- 14時20分 救助・救出活動を早期終了（火山性微動増加のため）
- 19時00分 第9回災害対策本部員会議・第4回国現地对策本部会議合同開催
医療救護班を「医療救護・こころのケア」にシフト

【0時20分】

長野県警が1名の身元を確認したと発表。

【4時30分】

陸上自衛隊第2普通科連隊が王滝口へ向けて前進開始。

【6時】

噴煙が山頂方面に流れているため、黒沢口で出動準備をしていた救助隊が王滝口に移動開始。

【6時12分】

火山性微動の振幅が大きくなっていることを気象庁が確認。気象庁の火山防災官は「27日と同規模の水蒸気爆発を起こす可能性がある。活動が収まる見通しは立っていない」と発言。

【6時20分】

救助隊の175名が王滝口から入山。



依然としておさまらない御嶽山の噴煙（白）

【7時5分】

火山活動が活発化していることから、長野県は救助・救出活動の一時中止を指示。地上隊は八合目などで、ヘリ隊は松原スポーツ公園でそれぞれ待機。

【8時】

長野県庁で県の第8回災害対策本部員会議と国の第3回国現地对策本部会議を合同開催。

【9時30分】

国土交通省が防災ヘリコプターによる御嶽山上空からの降灰状況調査を実施。

【10時】

長野県議会の代表質問が始まる。県の対応状況などについての質疑を行う。

【10時10分】

北川イッセイ国土交通副大臣が視察のため松原スポーツ公園にヘリコプターで到着。



王滝村の松原スポーツ公園には多数の消防車両が集まった（木消）



搬送準備が整った資機材（木消）

【10時50分】

長野県警が1名の身元を確認したと発表。

【12時15分】

噴火の可能性が高まってきたことから、長野県災害対策本部がこの日の地上隊の活動中止を決定。

【12時40分】

救助隊が下山を開始。

【14時20分】

長野県災害対策本部がヘリコプターでの救助・救出活動中止も決定。長野県の危機管理監は、「火山性微動が発生し、救助活動ができる状態にならなかった」と説明。

【14時45分】

長野県が北川国土交通副大臣に人命救助への支援や二次

災害防止対策の推進、火山活動の監視強化などを要請。

【17時30分】

長野県災害対策本部と国の災害対策本部がテレビ会議を行う。

【19時】

長野県庁で県の第9回災害対策本部員会議と国の第4回現地対策本部会議を合同開催。

【20時30分】

総務省消防庁が火山ガスに対応する防毒マスク100セットを配布。

【時間不明】

日本赤十字社の医療救護班が活動を終了。「こころのケア」チームにシフトする。



ヘリポートとなった松原スポーツ公園。長野県相互消防応援隊の宿営地にもなった（自）



防護マスクの装着要領を指導する自衛隊員（自）



ヘリコプター搭乗のため待機する消防隊員（名消）



国土交通省の調査団がヘリコプターで王滝村に到着（木消）



王滝口から入山した救助隊が下山（松消）

■ 10月1日(水) 晴れときどき曇り／日の出5時44分・日の入り17時35分

主な動き

- 6時15分 救助・救出活動開始
- 8時00分 第10回災害対策本部員会議・第5回国現地对策本部会議合同開催
- 17時30分 第11回災害対策本部員会議・第6回国現地对策本部会議合同開催
- 19時00分 救助・救出活動終了(救助者36名)

【5時10分】

長野県庁にて活動調整会議が行われる。火山性微動は継続しているものの、振れ幅に大きな変化がない状態が続いているとして、救助・救出活動再開を決定。

緊急消防援助隊の現地指揮本部が、木曽広域消防本部から王滝村役場へ移動。

【6時15分】

救助隊の地上隊180名が王滝口から出発。後方支援を含めると1000名あまりの体制となった。



大型輸送ヘリコプター CH-47での隊員輸送を開始(自)

【7時23分】

ヘリ隊190名が松原スポーツ公園を離陸。救助活動の迅速化のため、この日初めて大型輸送ヘリ2機が出動。

【8時】

長野県庁で県の第10回災害対策本部員会議と国の第5回現地对策本部会議を合同開催。

【9時ごろ】

八丁ダルミ付近で要救助者7名を発見。王滝頂上山荘へいったん収容したのち、10時14分に搬送を開始。

【9時18分】

一ノ池付近で要救助者4名を自衛隊ヘリに収容。

【9時52分】

自衛隊ヘリが二ノ池付近で要救助者3名を収容。

【10時】

総務省消防庁がガス検知器2台を配布。



双眼鏡で噴煙の状況を確認(名消)



二ノ池に着陸後、徒歩で山頂をめざす(松消)



山頂で捜索方法について打ち合わせ(松消)



噴煙で視界が霞む八丁ダルミ（自）



可能な限り斜面を下って捜索（松消）



火山灰で覆いつくされた岩場を捜索（松消）



山頂付近で要救助者を発見（松消）



緊急消防援助隊が要救助者を救出（名消）

【10時25分】

自衛隊ヘリが一ノ池付近で要救助者4名を収容。

【10時30分ごろ】

ご遺体安置所となった木曾町の旧上田小学校に心肺停止状態の要救助者が搬送され、ご家族が確認に訪れる。

【10時49分】

自衛隊ヘリが一ノ池付近で要救助者3名を収容。

【11時18分】

八丁ダルミ付近などで、新たに10名前後の要救助者を発見したと長野県災害対策本部が発表。

【11時45分】

長野県警が、29日までに死亡を確認した12名の死因を、噴石が頭や体に当たったことによる外傷性ショックの「損

傷死」と発表。

航空自衛隊浜松救難隊（静岡県・浜松基地）の中型多用途ヘリコプターが松本駐屯地を離陸。

【12時3分】

自衛隊ヘリが一ノ池付近で収容した要救助者2名が松原スポーツ公園に到着。

【12時45分】

消防隊が王滝奥ノ院付近で要救助者を発見。王滝口の田の原登山口まで地上搬送。

【13時11分】

自衛隊ヘリが一ノ池付近で要救助者1名を収容。

【13時56分】

自衛隊ヘリが一ノ池付近で要救助者10名を収容。



王滝口登山道で発見した要救助者は登山口まで徒歩で搬送。隊員の疲労が蓄積しないようにローテーションが組まれた（東消）



王滝奥ノ院から王滝頂上山荘へ向かう（東消）



足場の悪い箇所では、担架の安全確保のため接地して搬送した（東消）



山頂から要救助者を搬送開始（松消）



山頂で発見した要救助者はヘリコプターが着陸できる一ノ池へ搬送（長消）



一ノ池に向けて稜線を下る（松消）



救助隊が王滝口の田の原登山口に到着（松消）



救急救命士が要救助者の状態を確認（松消）

【14時38分】

自衛隊ヘリが一ノ池付近で要救助者1名を収容。

【14時40分】

長野県警が1名の身元確認を発表。

【14時53分】

山頂付近での救助活動を終了。

【15時】

消防隊が八丁ダルミと王滝奥ノ院で発見した要救助者8名を地上搬送。

【15時30分】

国土交通省が「御嶽山周辺地域における今後の大雨に対する土砂災害に関する注意事項」について情報提供し、注意を喚起。

【16時30分】

自衛隊の中央特殊武器防護隊（埼玉県・大宮駐屯地）が王滝村に向けて前進。

【17時30分】

長野県庁で県の第11回災害対策本部員会議と国の第6回現地对策本部会議を合同開催。

【18時】

長野県警が2名の身元確認を発表。

【23時30分】

長野県警が11名の身元確認を発表。

【時間不明】

厚生労働省が、木曾保健所の統括の下に「被災者家族サポートチーム」を結成し、ご家族待機所3ヶ所を巡回。



自衛隊のヘリコプターを洗浄する木曾広域消防本部の署員（木消）



宿営地で翌日の活動について打ち合わせ（名消）

■ 10月2日(木) 晴れのち曇り、一時雨／日の出5時45分・日の入り17時34分

主な動き

- 6時00分 救助・救出活動開始
- 8時00分 第12回災害対策本部員会議・第7回国現地对策本部会議合同開催
- 15時20分 救助・救出活動早期終了(降雨のため)
- 17時25分 第13回災害対策本部員会議・第8回国現地对策本部会議合同開催

【5時】

長野県警が16名の身元判明を発表。これにより、救助者47名中42名の身元が特定された。

【6時】

救助隊の地上隊89名が王滝口から入山開始。

【6時8分】

地上隊145名が黒沢口から入山開始。大型輸送ヘリコプターは、山頂付近の視界不良のため離陸を見合わせ。



マスクをつけて入山する警察の機動隊員(警)

【8時】

長野県庁で県の第12回災害対策本部員会議と国の第7回現地对策本部会議を合同開催。阿部知事が「二次災害に万全の注意を払いながら取り組んでほしい」と要望。

【9時30分】

王滝村が、王滝口の田の原に駐車したままの車約40台を移動する作業を開始。

王滝奥ノ院を捜索中の救助隊が、視界不良のため王滝頂上山荘へ退避。

【10時30分】

木曽町災害対策本部が会見。安否不明の相談がある者は24名と発表。ただし、そのなかには不確実な安否確認の要請も含まれている。安否不明者のご家族の多くは木曽町で待機。

【11時26分】

山頂で降雨を確認。

【11時35分】

長野県災害対策本部が捜索中止を決定。九合目まで登っていた地上隊に下山を指示。降雨により、積もった火山灰が土石流となって土砂などともに流れ出す可能性もあることから、捜索の再開は慎重に判断することに。

【13時35分】

王滝口に地上隊が下山。

【14時】

木曽警察署にて長野県警が安否不明者のご家族に状況を説明。



黒沢口八合目から雲がかかる山頂を望む(名消)



山頂部に近づくにつれて天候は悪化(松消)



警察の機動隊員が王滝頂上山荘から王滝奥ノ院に前進（警）

【14時45分】

検視の結果、死亡した47名中46名の死因は、噴石が直撃したことなどによる「損傷死」だったと長野県警が発表。残る1名は、噴火による熱風を吸い込んだことによる「熱傷死」だった。また、新たに2名の身元が判明したことも発表。

【15時】

王滝村が会見し、滝越地区での降雨による避難勧告などの発令基準は、区民との話し合いによって決めると説明。

【15時20分】

黒沢口から登った地上隊が下山。

【17時15分】

長野県警が3名の身元判明を発表。これにより死亡を確認した47名の身元が判明。



山頂付近は視界不良で前進不能に（名消）

【17時25分】

長野県庁で県の第13回災害対策本部員会議と国の第8回現地対策本部会議を合同開催。

【19時】

木曾町災害対策本部が会見を開き、「西野川などの流域6地区住民に対し、気象庁の大雨注意報発表を受けて避難勧告を発令する暫定的基準を設けた」と説明。

【19時30分】

三岳北部簡易水道の原水が白濁のため取水停止。木曾町が長野県水道協会に給水車の派遣を要請。

【時間不明】

二次災害対策として、国土交通省が監視カメラおよびワイヤーセンサーを濁川（濁沢川）、湯川、冷川、鹿ノ瀬川、白川に順次設置。



活動中止が決まり、下山準備をする緊急消防応援隊の愛知県隊（名消）



降りしきる火山灰で全身灰まみれに（松消）



ガスのなかを下山する自衛隊員（自）

■ 10月3日(金) 雨/日の出5時46分・日の入り17時32分

主な動き

- 4時55分 活動調整会議で救助・救出活動の中止を決定(降雨のため)
- 18時30分 第14回災害対策本部員会議・第9回国現地对策本部会議合同開催
県職員を王滝村に入山規制等対応職員として派遣

【4時55分】

降雨のため、長野県災害対策本部(活動調整会議)がこの日の活動中止を決定。これを受け、登山口に向かっていった救助隊が宿営地に引き返す。

気象庁の予報によると御嶽山周辺は3日夜まで雨、4日午前6時までの24時間に予想される雨量は長野県側で30ミリ、岐阜県側で40ミリの見通し。天候はその後いったん回復するが、大型で非常に強い台風18号が接近しており、気象庁は警戒を呼びかけた。

【6時55分】

王滝村が防災行政無線で住民に土石流への警戒を呼びかける。

【7時30分】

木曽町役場や町内の待機所で、安否不明者のご家族の出入りが始まる。

【10時】

国土交通省が、堆積した火山灰と降雨による土石流災害の発生場所や影響範囲を示すシミュレーション結果を発表。「土石流が発生しても人が住む集落にまで及ぶ可能性

は低い」と説明。

【10時30分】

長野県災害対策本部が記者会見を開き、「10月2日までに死亡が確認された47名以外に、行方不明者が16名いる」と発表。

【11時45分】

木曽町災害対策本部が緊急会見し、「町が把握している安否不明者は19名」とした。県が発表した16名との差異については「県と精査したい」と述べた。

【13時30分】

雨で孤立の恐れがある王滝村の滝越地区で住民説明会を開催。

【16時】

王滝村が会見し、「滝越地区は気象庁の大雨注意報発表により避難勧告を発令する基準に変更した」と発表。

【17時】

木曽町災害対策本部が会見を開き「行方不明者は16名で県側と合致した」と説明。

【18時30分】

長野県庁で県の第14回災害対策本部員会議と国の第9回国現地对策本部会議を合同開催。

【時間不明】

気象庁が王滝村大又に臨時雨量観測所を設置。DPATの活動終了。また、「被災者家族サポートチーム」を縮小し、以降はご家族待機所1ヶ所において対応。



宿営地で待機する緊急消防応援隊の隊員(名消)



待機中にテレビ報道を見る自衛隊員(自)

■ 10月4日(土) 曇り/日の出5時47分・日の入り17時31分

主な動き

- 6時30分 救助・救出活動開始
- 15時00分 救助・救出活動終了(救助者4名)
- 17時30分 第15回災害対策本部員会議・第10回国現地対策本部会議合同開催

【5時45分】

山頂や登山道周辺で土砂災害などの恐れがないかをヘリコプターで調査。

【6時27分】

自衛隊ヘリによる救助隊の入山開始。ヘリポートとなる一ノ池が水たまり状態になっているため、大型ヘリの使用は断念し、中型ヘリ2機でピストン輸送。

【6時30分】

登山道などに異常がないかを調査するため、救助隊の先遣隊が王滝口と黒沢口から入山。

【7時45分】

救助隊本隊の一部(51名)が王滝口から入山。

【8時58分】

王滝口から後続の救助隊57名が入山。黒沢口からも入

山を開始。

【9時】

王滝村が記者会見を開き、捜索体制などを説明。

【10時】

総務省消防庁がガス検知器30台を配布。

【10時34分】

ヘリ隊の入山完了。地雷探知器を導入し、腕時計など金属の反応を探りながら捜索。

【11時52分】

噴火発生から1週間後の同時刻に、木曾町と王滝村の住民や町村職員、捜索関係者らが黙禱し、犠牲者の冥福を祈った。

【15時】

要救助者4名を収容し、この日の活動を終了する。

【17時15分】

気象庁が台風18号の今後の見通しについて記者会見。

【17時30分】

長野県庁で県の第15回災害対策本部員会議と国の第10回国現地対策本部会議を合同開催。



王滝口登山道の九合目付近。モノクロームの写真のような荒涼とした風景が広がる(松消)



すぐ目の前で噴煙が立ちのぼる(松消)



二ノ池付近も泥状の火山灰で覆われた(自)



粘着性の高い火山灰が足取りを阻む（名消）



足が抜けなくなることもしばしばあった（長消）



火山灰に足を取られ、移動するだけでも体力を消耗する（長消）



トラバース東側の斜面で発見した要救助者を登山道まで引き上げる（東消）



担架を持った隊員を押し上げながら救出（東消）



ロープの支点には安全監視員を配置（東消）



王滝頂上山荘から要救助者の搬送を開始（松消）



要救助者を登山口まで搬送。到着が日没後になることもあった（東消）

■ 10月5日(日) 雨/日の出5時48分・日の入り17時29分

主な動き

5時7分 活動調整会議で救助・救出活動の中止を決定(降雨のため)

【5時7分】

台風18号が接近したため、この日の活動中止を決定。

【8時30分】

長野県が日本赤十字社に「こころのケアチーム」の派遣期間の延長を要請。

【10時】

1名の身元が確認されたことにより、死者51名の身元が判明。

【16時31分】

王滝村、木曾町、南木曾町に大雨・洪水注意報発表。これを受けて、木曾町が三岳地区(荻ノ島、棚山、井原、屋敷

野、倉本)、開田地区(柳又)の26世帯71名に避難準備情報を発令。16時37分には王滝村が滝越地区の10世帯14名に避難勧告。

【18時15分】

御嶽山の周辺は翌6日に1時間に50ミリの非常に激しい雨が降る恐れがあるため、長野県災害対策本部は6日午前中の活動見送りを決定。



未明に出発準備を整えたが、活動中止により宿営地で待機となる(松消)

■ 10月6日(月) 雨のち曇り/日の出5時48分・日の入り17時28分

主な動き

14時5分 活動調整会議で救助・救出活動の中止を決定(降雨の影響が残っているため)

17時30分 第16回災害対策本部員会議・第11回国現地对策本部会議合同開催

【8時】

王滝村災害対策本部で午後の活動の可否を検討。

【13時6分】

木曾町が三岳、開田地区の避難準備情報を解除。13時33分には王滝村が滝越地区の避難勧告を解除。

【14時2分】

自衛隊ヘリが山頂付近を偵察するため松原スポーツ公園を離陸するが、視界が悪く確認できず。

【14時5分】

降雨のため安全が確保できないなどとして、長野県災害対策本部(活動調整会議)は6日の搜索再開見送りを決定。

【14時24分】

自衛隊ヘリが山頂付近の状況確認のため再度現場へ向かったが、雲が厚く確認できず。7日以降の救助・救出活動については、天候の状況などを見ながら判断することに。

【17時30分】

長野県庁で県の第16回災害対策本部員会議と国の第11回国現地对策本部会議を合同開催。

総務省消防庁が火山ガスに対応する防毒マスク100セット、フィルター70個を配布。

【時間不明】

医療救護・こころのケアが御料館(旧帝室林野局木曾支局庁舎)で活動開始。

■ 10月7日(火) 晴れ/日の出5時49分・日の入り17時26分

主な動き

- 6時43分 救助・救出活動開始
- 16時31分 救助・救出活動終了(救助者3名)
- 17時30分 第17回災害対策本部員会議・第12回国現地
対策本部会議合同開催

【5時55分】

長野県警のヘリコプターが情報収集のため離陸。

【6時19分】

自衛隊ヘリによる救助隊の入山を開始。自衛隊の地雷探知機を計21台搬送。

【6時43分】

地上隊の先遣隊が黒沢口と王滝口から入山。

【7時45分】

地上隊の本隊が黒沢口と王滝口から入山開始。

【10時47分】

自衛隊ヘリが八丁ダルミ付近で要救助者1名をホイスト吊り上げて収容。

【13時39分】

自衛隊ヘリが八丁ダルミ付近で要救助者2名をホイスト吊り上げて収容。

【14時30分】

地上隊が下山開始。

【17時20分】

長野県警が死者1名の身元を確認したと発表。

【17時30分】

長野県庁で県の第17回災害対策本部員会議と国の第12回現地対策本部会議を合同開催。

【19時40分】

長野県警が死者1名の身元を確認したと発表。



台風の影響で火山灰の状態はさらに悪化した(警)



一歩踏み出すごとに靴が完全に埋まるほど足が沈む(長消)



長野県警保有の防護楯を運ぶ自衛隊員(自)



輸送ヘリが一ノ池に到着。泥濘地への着陸は高度な技術を要した(松消)

■ 10月8日(水) 晴れ/日の出5時50分・日の入り17時25分

主な動き

- 6時00分 救助・救出活動開始
- 15時58分 救助・救出活動終了(救助者1名)
- 17時00分 第18回災害対策本部員会議・第13回国現地对策本部会議合同開催

【5時40分】

長野県警のヘリコプターが離陸。現場付近の映像を官邸等に送信。

【6時】

地上隊が王滝口から入山。8時50分から八丁ダルミで、9時37分からトラバースで救助・救出活動開始。

【6時4分】

自衛隊の救助隊が松本駐屯地からヘリコプターで山頂部へ直接入山。王滝村周辺は霧がかかって着陸不可能なため、ヘリ隊本隊は松原スポーツ公園で待機。

【8時33分】

自衛隊ヘリによる救助隊の入山を開始。自衛隊の地雷探知機を計10台搬送。

【10時35分】

一ノ池で要救助者1名を発見。11時50分に自衛隊の中型ヘリが収容。

【11時】

長野県警が死者1名の身元を確認したと発表。

【14時】

地上隊が下山開始。14時50分にはヘリ隊が下山開始。

【17時】

長野県庁で県の第18回災害対策本部員会議と国の第13回国現地对策本部会議を合同開催。

【20時30分】

長野県警が死者1名の身元を確認したと発表。



トラバース東側の急斜面を捜索(東消)



地雷探知機を使って一ノ池の北側を確認(自)



泥まみれになりながらトラバース付近の地中を探る(東消)



火山灰が大量に降り積もり、膝下まで埋もれるところも(東消)



隊列を組んで捜索する警察の隊員。火山灰に足をとられて思うように進めない（警）



泥濘化した火山灰のなかでは、まっすぐ進むのも難しい。そこで水糸を渡して隊列が乱れないようにした（自）

■ 10月9日(木) 晴れ/日の出5時51分・日の入り17時24分

主な動き

9時10分 活動調整会議で救助・救出活動の中止を決定(天候不順・視界不良のため)
警視庁および岐阜県警察本部へ警察災害派遣隊要請

【5時30分】

地上隊106名が王滝口に、ヘリ隊345名が松原スポーツ公園に集結。

【6時】

自衛隊の大型輸送ヘリコプターが松本駐屯地を離陸した

が、視界不良につき山頂に着陸できず、松原スポーツ公園に待機。

【6時13分】

午後から降雨が予想されるため、長野県災害対策本部は地上隊の救助・救出活動の中止を決定。

【9時10分】

長野県災害対策本部(活動調整会議)が、この日のすべての救助・救出活動の中止を決定。

【13時50分】

消防庁長官が緊急消防応援隊の宿営場所を訪問し、消防隊員の安全管理の状況を視察。



山頂方面は厚い雲で覆われた(中邑)



地上隊が王滝口登山口の田の原に集結(松消)



準備万端でヘリコプターの飛行を待つ(名消)



自衛隊の宿営地となった王滝村国民体育館(自)



消防庁長官が緊急消防援助隊の隊員を激励(名消)

■ 10月10日(金) 晴れ/日の出5時52分・日の入り17時22分

主な動き

- 6時00分 救助・救出活動開始
- 17時00分 第19回災害対策本部員会議・第14回国現地
対策本部会議合同開催
- 17時7分 救助・救出活動終了

【4時】

長野県災害対策本部（活動調整会議）が活動再開を決定。

【5時45分】

長野県警の警察ヘリが離陸。現場付近の映像を官邸等に送信。

【6時】

救助隊が黒沢口、王滝口から入山開始。この日から警視庁と岐阜県警の機動隊員が応援に加わり、救助・救出活動の入山者数が初めて500名を超える（ヘリ隊も含む）。

【6時13分】

自衛隊の救助隊が松本駐屯地より中型ヘリコプターで入山。6時28分には大型ヘリコプターが松本空港を離陸。

【7時19分】

ヘリ隊が松原スポーツ公園より順次入山開始。

【13時40分】

地上隊が下山開始。

【15時3分】

ヘリ隊が下山開始。

【17時】

長野県庁で県の第19回災害対策本部員会議と国の第14回現地対策本部会議を合同開催。

気象庁が火山登山者向けの情報をホームページで公開開始。

【17時7分】

全部隊が下山完了。



稜線のすぐ脇で噴煙が湧きあがる（松消）



ガムテープで火山灰の侵入を防止（木消）



王滝口登山道を登る救助隊員（松消）



王滝頂上から、さらに山頂へ向けて前進（松消）



王滝頂上付近から山頂方面を望む。10月7日より「面」による捜索を実施。その跡がはっきりとわかる（長消）



泥状の火山灰に覆われた山頂東側の稜線（名消）



八丁ダルミの地中を入念に探る（松消）



広大な一ノ池。見落としがないように複数の救助隊が捜索（名消）



一ノ池西側の斜面。写真の奥が山頂方面（東消）



山頂近くの急斜面も隈なく確認（松消）



一ノ池東側の斜面を下降。奥に見えるのは二ノ池（自）

■ 10月11日(土) 晴れ/日の出5時53分・日の入り17時21分

主な動き

- 6時00分 救助・救出活動開始
- 11時00分 政府調査団（山谷防災担当大臣）への要望
- 16時26分 救助・救出活動終了（救助者1名）
- 17時15分 第20回災害対策本部員会議・第15回国現地対策本部会議合同開催

【5時57分】

自衛隊の救助隊が松本駐屯地よりヘリコプターで入山。

【6時】

地上隊が王滝口から入山開始。

【6時28分】

ヘリ隊が自衛隊ヘリコプターで入山開始。

【11時】

政府調査団（山谷防災担当大臣ほか8名）が王滝村を訪問。ヘリコプターで上空視察をしたのち、現地指揮本部を激励。農業生活改善センターで阿部知事と意見交換。

【13時18分】

山頂付近で要救助者1名を発見。13時55分に自衛隊ヘリがノー池付近で収容。

【14時】

山頂での救助・救出活動を終了。16時26分に全部隊が下山完了。

【16時50分】

長野県警が収容した要救助者の死亡を確認し、新たに身体の一部を収容したと発表。

【17時15分】

長野県庁で県の第20回災害対策本部員会議と国の第15回現地対策本部会議を合同開催。

【18時45分】

死者1名の身元が判明。



山谷防災担当大臣が王滝村を訪問（木消）



山頂北側の急斜面。ロープで安全確保をしながら慎重に下降（名消）



トラバース東側の斜面を捜索（東消）



消防隊員と自衛隊員で活動方針を調整（松消）



一ノ池から山頂を望む。堆積した火山灰で色のない世界に（自）



一ノ池の斜面。間近で噴煙があがる（自）



火山灰で汚れた靴を洗う緊急消防援助隊の隊員



野外に風呂を設営する自衛隊の後方支援隊員（自）

■ 10月12日(日) 晴れのち曇り／日の出5時53分・日の入り17時20分

主な動き

- 6時00分 救助・救出活動開始
- 15時6分 救助・救出活動終了
- 17時00分 第21回災害対策本部員会議・第16回国現地对策本部会議合同開催

【5時59分】

自衛隊の救助隊が松本駐屯地より中型ヘリコプターで入山。6時28分には大型ヘリコプターが松本空港を離陸。

【6時】

王滝口より救助隊が入山。

【7時10分】

ヘリ隊が自衛隊ヘリコプターで入山開始。

【8時15分】

ヘリ隊が山頂に到着。

【11時】

長野県庁で気象庁による台風19号の説明会を実施。

【14時2分】

ヘリ隊が下山開始。14時30分に下山完了。

【15時】

地上隊が王滝口へ向けて下山開始。

【15時6分】

山頂での活動を終了。

【16時40分】

全部隊が下山完了。

【17時】

長野県庁で県の第21回災害対策本部員会議と国の第16回現地对策本部会議を合同開催。

台風19号接近が見込まれるため、10月13日～14日の救助・救出活動の中止を決定。



山頂直下の斜面を捜索(自)



山頂の御嶽神社。堆積した火山灰をスコップで除去(自)



山頂部の瓦礫を取り除く(松消)



山頂へ至る階段付近を再確認（自）



建物と石垣の間も入念に探る（自）



小屋のなかには再三にわたって捜索（長消）



地雷探知機で火山灰の下を確認。後方は八丁ダルミ。隙間なく捜索した跡がうかがえる（松消）

■ 10月13日(月) 雨/日の出5時54分・日の入り17時18分

主な動き

救助・救出活動中止（台風第19号接近のため）

【15時30分】

王滝村が滝越地区の10世帯に避難勧告を発令。

【16時30分】

木曾町が三岳地区（荻ノ島、棚山、井原、屋敷野、倉本）、開田地区（柳又）の26世帯に避難勧告を発令。

【時間不明】

台風19号は非常に勢力が強く、各隊の自己管轄区域への被害も予想されたため、一部を除く救助隊は一時帰隊。

■ 10月14日(火) 雨のち曇り、ときどき晴れ/日の出5時55分・日の入り17時17分

主な動き

救助・救出活動中止（台風第19号接近のため）

18時30分 第22回災害対策本部員会議・第17回国現地对策本部会議合同開催

【5時】

王滝村が滝越地区の避難勧告を解除。

【5時30分】

木曾町が三岳地区、開田地区の避難勧告を解除。

【9時30分】

総務省消防庁が、捜索活動の体制強化を図るため、岐阜県と富山県に高度救助隊および山岳救助隊の出動を要請。

【15時6分】

自衛隊の映像伝送機が離陸。上空偵察を実施。

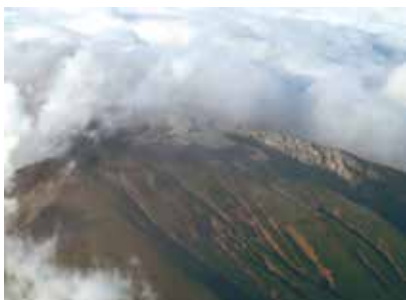
【18時30分】

長野県庁で県の第22回災害対策本部員会議と国の第17回現地对策本部会議を合同開催。

15日以降は救助・救出活動の第3期と位置付けし、最大規模の人員を投入して、これまで捜索してきた箇所を再確認することを決定。



上空偵察に向かう自衛隊のヘリコプター（名消）



雲に覆われた山頂付近（名消）



上空偵察後に王滝村役場で開かれた共同作戦会議（名消）

■ 10月15日(木) 曇りのち雨/日の出5時56分・日の入り17時14分

主な動き

- 6時00分 救助・救出活動開始
- 11時00分 救助・救出活動早期終了(降雨のため)
- 19時15分 第23回災害対策本部員会議・第18回国現地対策本部会議合同開催

【5時59分】

長野県警の警察ヘリが離陸。現場付近の映像を官邸等に送信。

【7時59分】

地上隊の先遣隊が黒沢口、王滝口、開田口から入山。

【8時3分】

ヘリ隊の先遣隊が松本駐屯地より順次入山。

【8時50分】

地上隊が入山開始。

【9時58分】

ヘリ隊が自衛隊ヘリコプターで入山を開始したが、火山ガスの濃度が高いため着陸できず、松原スポーツ公園に帰投。徒歩での入山に変更。

【10時5分】

王滝頂上付近、火山ガス濃度の上昇にともない、八合目付近まで退避。

【11時】

山頂付近の天候悪化につき、全部隊の搜索活動の中止を決定。

【12時12分】

王滝口の地上隊が下山完了。15時35分に全部隊の下山が完了。

【19時15分】

長野県庁で県の第23回災害対策本部員会議と国の第18回現地対策本部会議を合同開催。



初冠雪した二ノ池から山頂へ移動(自)



雪景色となった稜線を進むヘリ隊の先遣隊(名消)



凍りついた火山灰をかき分ける(自)



雨が降り出したため救助・救出活動は中止となる(警)

■ 10月16日(金) 晴れのち曇り／日の出5時57分・日の入り17時14分

主な動き

- 6時00分 救助・救出活動開始
- 14時28分 救助・救出活動終了
- 17時30分 第24回災害対策本部員会議・第19回国現地对策本部会議合同開催
- 17時40分 第25回災害対策本部員会議開催
- 18時15分 総務省消防庁に緊急消防援助隊の引き揚げを要請
陸上自衛隊第13普通科連隊に撤収を要請
- 19時30分 知事記者会見（救助・救出活動の終了について）

【5時32分】

先遣隊が王滝口から入山開始。5時35分には黒沢口からも先遣隊が出発。

【6時】

救助隊本隊が黒沢口、王滝口から順次入山。発災以降最

大規模の958名体制（後方支援を含めると1961名）。ヘリコプターは飛行できず、全隊員が地上からの入山となる。

【6時9分】

長野県警の警察ヘリが山頂付近の映像を送信。8時5分からは埼玉県警、9時25分からは岐阜県警のヘリが送信。

【7時35分】

王滝口先遣隊が王滝頂上山荘に到着。

【8時3分】

長野県消防防災ヘリコプターが離陸。上空からの目視による捜索を実施。

【8時30分】

王滝口先遣隊が剣ヶ峰山頂に到着。気温1.9度。9時15分に本隊と合流し、救助・救出活動を開始。

【9時26分】

黒沢口先遣隊が山頂に到着。9時48分より救助・救出活



ヘリコプターが飛行できず、全隊員が徒歩で入山（長消）



凍った火山灰が溶けてぬかるみ状態に（東消）



防毒マスクをつけて八丁ダルミを捜索（自）



下山前に黙禱を捧げる緊急消防援助隊の隊員（東消）



この日は発災以来最大の人数を動員。山頂周辺を隈なく捜索した（警）

動を開始。積雪10センチ、凍結あり。

【11時50分】

行方不明者のご家族を乗せた自衛隊の輸送ヘリコプターが松原スポーツ公園を離陸。

【12時30分】

東京消防庁のヘリコプター「おおたか」が松本空港を離陸。上空からの目視による捜索を実施。

【14時28分】

救助・救出活動終了。下山を開始。

【17時25分】

救助隊の下山完了。

【17時30分】

長野県庁で県の第24回災害対策本部員会議と国の第19回国現地対策本部会議を合同開催。

【17時40分】

第25回災害対策本部員会議を開催。救助・救出活動終了を決定。

【18時15分】

陸上自衛隊第13普通科連隊、総務省消防庁、警視庁および岐阜県警へ撤収を要請。

【19時30分】

阿部知事が救助・救出活動終了についての記者会見。緊急消防援助隊が引き揚げを決定。

【20時30分】

木曾広域消防本部が長野県消防相互応援隊の応援要請を解除。



救助・救出活動の終了を検討した第24回災害対策本部員会議

■ 搜索終了後

主な動き

10月17日(金)

9時00分 御嶽山噴火災害にかかる救助隊への感謝式

13時30分 国御嶽山噴火非常災害現地対策本部廃止

10月27日(月)

11時30分 第26回災害対策本部員会議開催

平成27年1月22日(木)

11時00分 第27回災害対策本部員会議開催

【10月17日】

9時、「御嶽山噴火災害にかかる救助隊への感謝式」を松原スポーツ公園にて開催。阿部知事、松本大臣政務官、原木曽町長、瀬戸王滝村長が救助隊へ謝辞を述べる。

13時30分、国が現地対策本部を廃止。

19時、国土交通省中部地方整備局が非常体制から警戒体制へ移行。

【10月18日】

山小屋の被害状況調査および小屋閉めのため、山小屋関係者と木曽町の職員が4日間にわたって入山。

【10月20日】

中央防災会議防災対策実行会議において「火山防災対策推進ワーキンググループ」の設置を決定。

【10月23日】

1名の身元が判明。死者57名、行方不明者6名になる。

【10月27日】

11時30分、第26回災害対策本部員会議を開催。噴火から1ヶ月後にあたる11時52分に黙禱を捧げる。

木曽町は太陽の丘公園で、王滝村はおんたけ銀河村キャ



王滝村の松原スポーツ公園で開催された救助隊への感謝式（長消）



松本大臣政務官、阿部知事、木曽町長、王滝村長が謝辞を述べた（木）



感謝式終了後、帰隊する救助隊員を拍手でお見送りする（木消）



王滝小中学校の生徒が唄を歌って自衛隊員に感謝の意を伝えた（信毎）

ンブ場に設けられた献花台前で追悼式を開催。

【11月8日】

火山噴火予知連絡会御嶽山総合観測班地質チーム（産業技術総合研究所、東京大学地震研究所、信州大学、帝京平成大学、富士山科学研究所の6名と地元の山岳ガイド2名）が山頂部と二ノ池周辺の調査を実施。

【11月27日】

積雪期の来訪者のために、王滝村が松原スポーツ公園に献花台を設置。村民の有志が慰霊法要を開く。

【12月24日】

御嶽山火山防災協議会を設立。

【平成27年1月19日】

火山噴火予知連絡会が拡大幹事会を開催。噴火警戒レベ



木曾町の太陽の丘公園に設置された献花台（小寺）

ルの警戒範囲を、火口から4キロ→3キロに変更。

【1月22日】

第27回災害対策本部員会議を開催。

【3月27日】

噴火半年後の慰霊行事を、木曾町が太陽の丘公園で、王滝村が松原スポーツ公園で開催。



山小屋関係者に貸し出された防毒マスク（小寺）



小屋閉めの作業を終えた二ノ池本館（小寺）



噴火から1ヶ月後の追悼式で黙禱する木曾町の職員（木）

資料 機関別活動人員一覽 (長野県まとめ)

		9月28日	9月29日	9月30日	10月1日	10月2日	10月3日	10月4日	10月5日	10月6日
				火山性微動 早期終了		降雨 早期終了	降雨 活動中止		降雨 活動中止	降雨 活動中止
自衛隊	王滝口登山道	92	95	79	79	20	-	26	-	-
	黒沢口登山道	93	-	-	-	60	-	-	-	-
	開田口登山道	-	30	-	-	-	-	-	-	-
	山頂（ヘリ移動）	-	68	64	70	-	-	83	-	-
	後方支援	-	-	175	175	244	-	215	-	-
	小計	185	193	318	324	324	0	324	0	0
警察	王滝口登山道	26	-	17	23	21	-	27	-	-
	黒沢口登山道	16	-	-	-	34	-	22	-	-
	開田口登山道	-	43	-	-	-	-	-	-	-
	岐阜県側登山道	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	山頂（ヘリ移動）	-	21	42	42	-	-	9	-	-
	後方支援	114	244	332	299	375	-	252	-	-
小計	156	308	391	364	430	0	310	0	0	
県内消防	王滝口登山道	33	30	6	2	17	-	34	-	-
	黒沢口登山道	36	37	-	-	-	-	-	-	-
	山頂（ヘリ移動）	-	-	20	33	-	-	-	-	-
	後方支援	99	105	120	115	122	-	101	-	-
	小計	168	172	146	150	139	0	135	0	0
緊急消防援助隊	王滝口登山道	61	122	73	76	31	-	33	-	-
	黒沢口登山道	67	10	-	-	51	-	10	-	-
	開田口登山道	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	山頂（ヘリ移動）	-	-	50	45	-	-	80	-	-
	後方支援	65	79	104	106	143	-	99	-	-
小計	193	211	227	227	225	0	222	0	0	
救助・救出	地上隊（登山道）	424	367	175	180	234	0	152	0	0
	山頂（ヘリ移動）	0	89	176	190	0	0	172	0	0
	小計	424	456	351	370	234	0	324	0	0
後方支援	278	428	731	695	884	0	667	0	0	
合計	702	884	1,082	1,065	1,118	0	991	0	0	

ヘリ隊（隊数）	自衛隊	7	7	9	7	7	-	11	-	8
	警察	2	5	3	4	3	2	3	-	4
	県内消防	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	緊急消防援助隊	-	-	-	1	1	-	1	-	-
	合計	10	12	12	12	11	2	15	0	12

活動実績	活動開始	7時40分	6時10分	6時20分	6時15分	6時	-	6時30分	-	-
	活動終了	15時頃	15時頃	14時20分	19時	15時20分	-	15時	-	-
	救助者数（*1・*2）	11	0	0	36	0	0	4	0	0

*1 「救助者数」の救助者とは、心肺停止状態の者をいう。

*2 上記の活動期間に身元確認中だった1名は救助者数に計上していない（平成26年の救助者数は57名）。

10月7日	10月8日	10月9日	10月10日	10月11日	10月12日	10月13日	10月14日	10月15日	10月16日	合計
		天候不順 活動中止				天候不順 活動中止	天候不順 活動中止	天候不順 早期終了		
40	30	-	31	48	38	-	-	134	161	873
5	-	-	-	-	-	-	-	59	247	464
-	-	-	-	-	-	-	-	37	-	67
185	174	-	164	163	166	-	-	163	-	1,300
150	150	-	150	150	150	-	-	190	235	1,984
380	354	0	345	361	354	0	0	583	643	4,688
5	-	-	114	111	63	-	-	211	179	797
5	-	-	-	-	-	-	-	5	122	204
-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	48
-	-	-	-	-	-	-	-	21	20	41
47	86	-	87	85	95	-	-	90	-	604
233	235	-	251	262	287	-	-	538	549	3,971
290	321	0	452 警視庁 91 岐阜県 23	458 警視庁 84 岐阜県 23	445 警視庁 58 岐阜県 23	0	0	870 警視庁 80 岐阜県 46	870 警視庁 80 岐阜県 36	5,665
-	-	-	30	-	5	-	-	35	50	242
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	73
30	30	-	-	27	30	-	-	-	-	170
104	103	-	82	105	98	-	-	105	94	1,353
134	133	0	112	132	133	0	0	140	144	1,838
31	26	-	6	35	26	-	-	59	83	662
10	-	-	-	-	-	-	-	6	96	250
-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	6
80	93	-	114	83	91	-	-	108	-	744
99	95	-	88	95	101	-	-	124	125	1,323
220	214	0	208	213	218	0	0	303	304	2,985
96	56	0	181	194	132	0	0	578	958	3,727
342	383	0	365	358	382	0	0	361	0	2,818
438	439	0	546	552	514	0	0	939	958	6,545
586	583	0	571	612	636	0	0	957	1,003	8,631
1,024	1,022	0	1,117 警視庁 91 岐阜県 23	1,164 警視庁 84 岐阜県 23	1,150 警視庁 58 岐阜県 23	0	0	1,896 警視庁 80 岐阜県 46	1,961 警視庁 80 岐阜県 36	15,176
8	8	-	8	8	8	-	-	8	8	112
3	4	-	3	3	3	-	-	3	3	48
-	-	-	-	1	1	-	-	1	1	5
1	-	-	-	1	1	-	-	1	1	8
12	12	0	11	13	13	0	0	13	13	173
6時43分	6時	-	6時	6時	6時	-	-	6時	6時	-
16時31分	15時58分	-	17時7分	16時26分	15時6分	-	-	11時	14時28分	-
3	1	0	0	1	0	0	0	0	0	56

対比写真で見る噴火前と噴火後

■ 王滝口の御嶽神社頂上奥社から八丁ダルミ、山頂方面を望む



〈上〉平成25年7月21日撮影 〈下〉平成27年6月10日撮影（王）

■ 御嶽剣ヶ峰山荘下の登山道から見た
八丁ダルミ、王滝頂上、奥ノ院方面



〈上〉平成26年9月13日撮影
〈下〉平成27年6月10日撮影(王)

■ 山頂直下の階段



〈上〉平成26年9月13日撮影 〈下〉平成27年6月10日撮影(王)

■ 御嶽頂上山荘



〈上〉平成25年7月15日撮影 〈下〉平成27年6月10日撮影(王)

■ お鉢めぐり入口から一ノ池を見下ろす



〈上〉平成26年9月13日撮影 〈下〉平成27年6月10日撮影(王)

■ 黒沢口登山道から見た山肌



〈上〉平成26年9月26日撮影 〈下〉平成26年9月27日撮影(小寺)



■ 二ノ池本館横の通称2.5ノ池



〈上〉平成26年9月26日撮影
 〈下〉平成26年10月19日撮影(小寺)